

張弦梁取付状況



アリーナ内部

## ＝全トヨタ労働組合連合会 つどいの丘＝ 多目的ホール棟

全トヨタ労働組合連合会の研修センター「つどいの丘」は、名古屋市の東約35km、豊田市の北側の、猿投山を望む豊かな自然の中にあります。現在、この研修センターに隣接して多目的ホールが建設されています。「自然との調和」を重視し、外部空間と一体性を有する木質系の香りのするアリーナ空間を得るために、その大屋根を支える部分に、構造用大断面集成材を用いた張弦梁構造が採用されました。

RC造2階建（一部S造）の27m×36mのアリーナ空間にかかる傾斜屋根は、構造用大断面集成材、束材、ケーブルで構成された張弦梁9本と妻側の2本の化粧用集成材で支持されています。

9本の集成材はそれぞれ3分割して工場で製作され、現場搬入後一本に接合、束・ケーブルを取り付けて張弦梁の形にして、クレーンで吊り上げ所定の位置に納めました。

今年2月末に着工した工事は、8月初めに張弦梁の建方を終え、現在、金属屋根も貼られ、11月の竣工に向けて最後の追い込みに入っているところです。

三井建設(株) 黒田 猛

# 中部電力(株)川越火力発電所本館建屋の横引き工法について

大成建設(株) 小田切 智 明

## 1. はじめに

本建物は、三重県川越町に建設中の火力発電所の本館建屋で、スパン方向67m、桁行方向247m、高さ約37mの鉄骨造の建物である。建屋内には、7軸のタービンが設置され、改良型コンバインドサイクルによる発電方式で最高出力は165万kwである。本工事は、施工上の理由で鉄骨建方に横引き工法を採用しており、その概要について報告する。

## 2. 建物概要

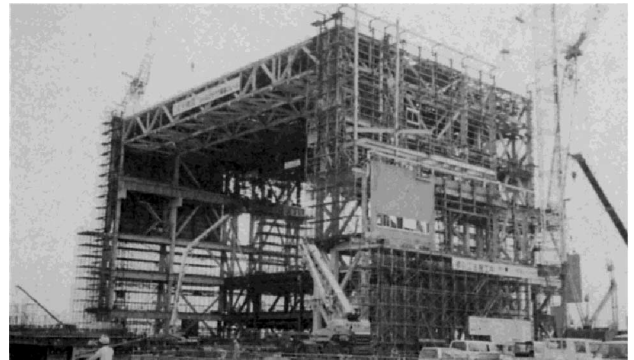
工事名称 中部電力(株)川越火力発電所  
4号系列本館建屋ほか工事  
建設場所 三重県三重郡川越町大字亀崎新田字朝明87-1  
建物用途 火力発電所タービン建屋他  
設計監理 中部電力株式会社  
施 工 大成建設・熊谷組共同企業体  
建築面積 19,925m<sup>2</sup>  
延床面積 45,197m<sup>2</sup>  
構 造 鉄骨造3階建  
工 期 平成5年9月～平成9年5月(44.5ヶ月)

## 3. 工法概要

本工事を施工するにあたり、種々の外周条件、工程条件、環境条件から建屋外周部で仮説エリアとして使用できる範囲が限られてしまい、この条件をクリアするために、各種の施工法が検討され、その結果横引き工法が採用された。この工法は鉄骨建方エリアで架構を組立、順次横移動させながら全体架橋を構築していくもので、仮説エリアが少なくすむ上、工程上、安全上、有利な工法である。今回横引きによる施工範囲は図2に示した断面図の実線部分で、スパン48mのメインフレームとそれに取付く下屋架構である。点数で示した内部鉄骨等は後施工とした。

横引き方法は、図3に示す様にトラス柱の柱脚部にナイロン樹脂板による滑り支承を取付け、レール基礎上に敷かれた鉄板上をスラスト力を保持しながら移動していくもので、加力装置は柱の両側2ヶ所に設置された油圧ジャッキである。

横引き手順として、まず鉄骨建方エリアで第1スパンの建方を行い、横引きにより、移動する。次に元の位置では、第2スパンの建方を行い、同時に1ブロック移動した第1スパンでは屋根、壁の仕上げ材の取り付けを行う。順次、この作業を繰り返し、250mの移動を約8ヶ月で完了するものである。(図4参照)



施工状況写真

## 4. 横引き工法に伴う構造検討

横引き工法採用に当たって、構造的に検討した項目は大きく分けて次の二点である。

- 1) 横引き時のフレームの安全性
- 2) 横引き用仮設部材の設計

フレームの安全性については、横引きの作業時に想定される外力(地震、風)に対して、移動、転倒などが起こらず、構造的に問題ない事を確認したものである。外力レベルとしては地震力として震度4(80gal)を想定し、また風荷重として「鉄骨工事技術指針」に依り、基準風速 $V_0=35$  m/sとして検討した。さらに鉄骨移動時に起こる慣性力に対して、転倒の恐れがない事を解析により確認した。

横引き用仮設部材は油圧ジャッキの力を本体フレームに伝達するための補助鉄骨である。ジャッキ1台当たりの引張力は、横引き時の最大重量約4,000tonに対して、滑り支承の摩擦係数を0.12と設定し、10台の油圧ジャッキで引くものとする、

$$4,000 \times 0.12 \div 10 = 48 \rightarrow 50 \text{ ton/台}$$

となり、この荷重に対して安全である様に部材断面を決定した。

又、本工事に於いては柱脚のアンカーボルトに異形鉄筋を用い、横引きするブロックは、機械式継手を採用し工法上支障の無い様になっている。

## 5. おわりに

8月現在、現場は全体の約1/4の横引き工事が終了した状況である。工事開始当初、滑り面の摩擦係数は0.12程度であったが、架構が良くなり、重量が増えるにつれて減少し、現在では摩擦係数0.1以下であり、非常に滑らかで安定した動きを見せている。

横引き工事の完了は、来年2月の予定である。

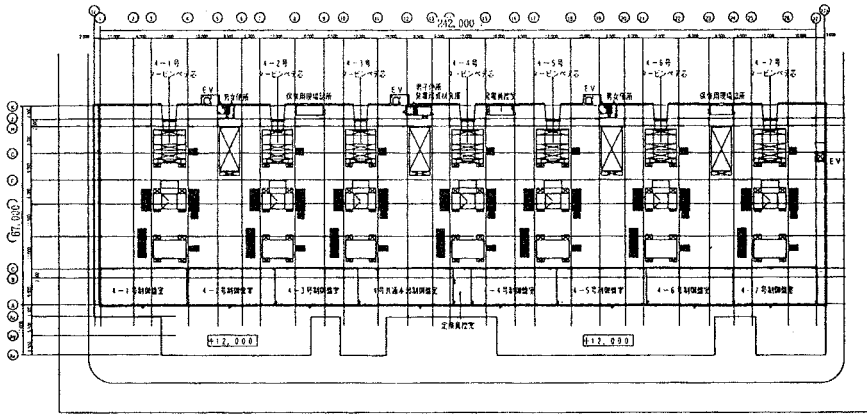


図1 平面図

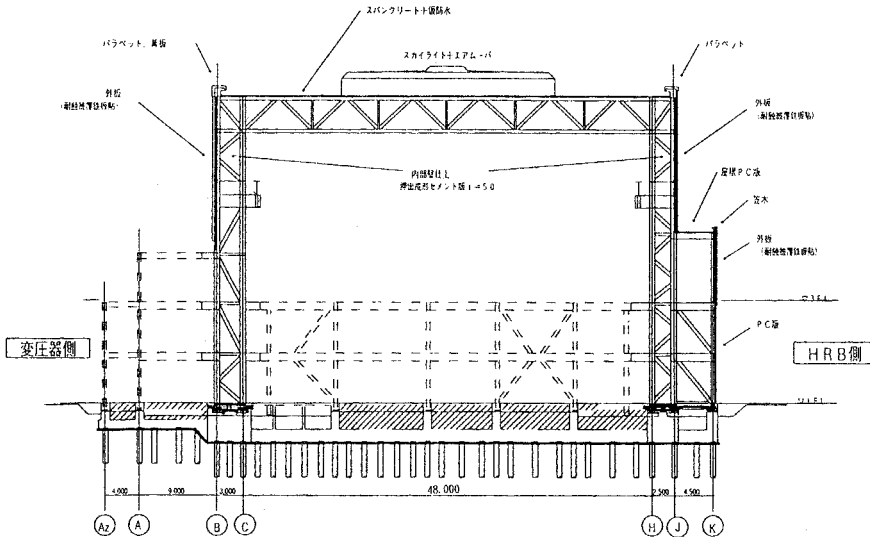


図2 断面図

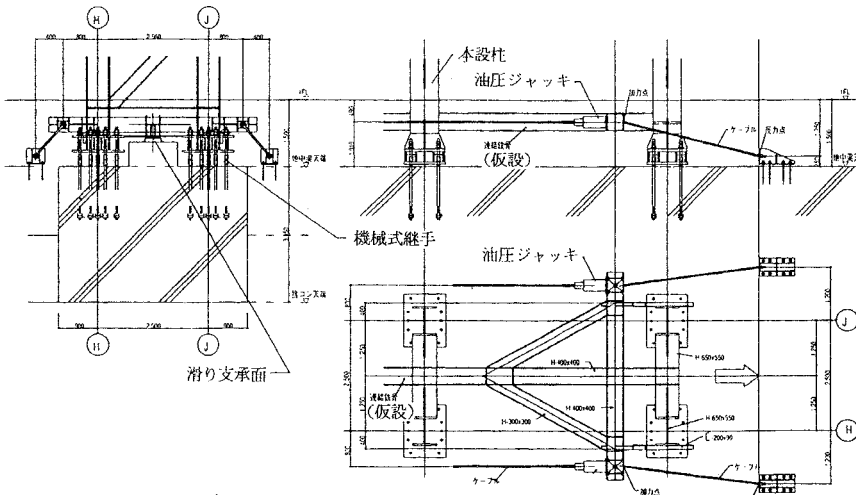


図3 横引き機構詳細

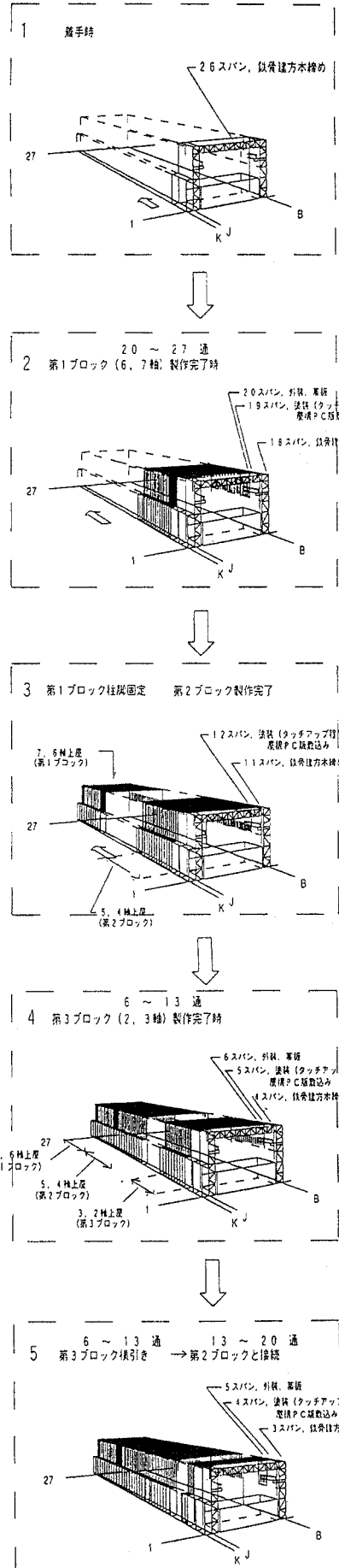


図4 横引き流れ図



# 構造家懇談会中部支部設立のころ

—— 新耐震設計元年 ——

(株)セントラル技術センター 渡辺 誠 一

構造家懇談会が設立されるまで建築関係の団体の中に構造設計者の横のつながりを持つ組織がなかったのは不思議なことである。強いて云えば建築学会の構造委員会に構造設計実務者が参加しているのが唯一のそれであった。小生はかつて建築士会の中に構造グループの委員会なるものをと二、三人の人に呼びかけたことがあったが、その機運には至らなかった。その様な折、耐震設計法の改正が取り沙汰されだし、新耐震設計法による建築基準法施行令の改正が施行されたのは昭和56年6月1日であった。折しも、構造家懇談会が発足したのが、その2日前の5月29日である。一方、法改正にさきかけ、その約1年くらい前から新耐震設計法の概要についての説明会などが開催され、行政側もスムーズな施行に向けて何かと準備されていたが、愛知県も昭和55年9月に建築部技監西方氏(当時)を中心に県建築部指導課、名古屋市他県下建築行政側と建築士会、建築事務所協会、建築安全協会らが構成員となり新耐震設計連絡協議会を設け、新耐震設計法に対する対応方法について何回か協議されたのであった。建築士会側から大塚一三氏と小生が、建築事務所協会から田辺氏、稲田氏らが参加した。しかし、士会の中には構造設計者の委員会はなく、その受け皿はなかったのである。

その様な時期に東京では構造実務者の団体をつくる準備がなされていた。その設立総会に中部から、大塚一三氏、本郷智之氏と小生の3名が参加したのであるが、構造家懇談会設立当初の正会員は102名であった。まさに、新耐震設計法と共に当会が誕生したことになる。

その後、中部では支部設立の動きが活発になり、6回の密度の濃い準備会を経て、本会設立5ヶ月後の昭和56年10月30日に全国にさきかけ支部第1号として発足した。当時、初代支部長に北内博雄氏、副支部長に大塚一三氏、理事に伊藤次二郎氏、奥井徹氏、本郷智之氏(事務局)、渡辺誠一、会計監査に森田富士男氏らがその役に当り、正会員は39名であった。設立総会は郵貯会館で行われ、本会から矢野代表が出席され挨拶をいただいたのであるが、その中で構造家懇談会の名称について、およそ次のように話された。「……この会は建築の構造技術者の中でもコンサルタントとしての識見、経験等を兼ね備えた方を対象にしようとして構造家という名前を決めたわけです。次に懇談会という言葉は、これは当然この会は協会を目指しており、先ず構造家という新しい位置づけを作ったことも画期的であるが、一方では建築士法改正ということで、先ず、皆の懇談を主として我々が構造家という職能集団が作るべき協会の在り方を皆で話し合っていこうというのが懇談会という名前を

つけた動機であります。……」と。そして本会が発足して8年間のたゆまぬ諸活動を通して平成元年7月には念願の法人化を実現した。しかし、8年間慣れ親しんできた構造家という名称は、残念ながら諸般の事情から引き継ぐことはできず、今回の名称になったのである。

さて、支部設立披露のことに少し触れよう。設立総会は同じ会場で正会員39名中34名の出席。矢野代表はじめ地元行政関係者、建設関連諸団体の代表、報道関係者ら20名の御臨席をえて行われ、北内支部長、矢野代表の挨拶に続いて来賓の豊橋技術科学大学教授横尾義貫氏、愛知県建築部長和田友一氏のお祝いの辞があり、会員数は少なかったが和やかなパーティーが行われた。中部支部の第1回理事会は11月11日に開かれ今後の活動方針等が討議され本格的にスタートをきった。そして翌年新年互礼会を1月22日に開催し、22名の出席であったが中部支部出発の新しい幕開けであった。1月26日には行政担当者を囲む会を開催、行政側から愛知県大川建築課長、中村防災担当主幹、小島補佐、早川主査、名古屋市から馬場審査課長、水野防災係長、支部理事全員等が出席し今後担当者レベルで情報交換を行うことになった。この会は以後毎年行われ、今日、行政との構造懇談会として継続しているものであり当会の全国7支部の中でも中部支部だけのユニークな活動である。その成果は、確認申請における構造チェックリスト及びその解説の作成への協力など多々あげることができる。

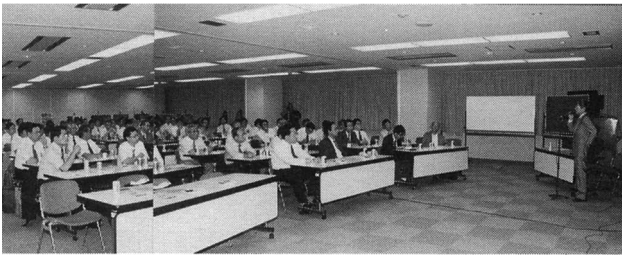
昭和57年3月の理事会では技術委員会を発足させることを決め小生が委員長となり活動を開始した。特に、新耐震設計法は施行されて間もないことでもあり「新耐震に関する会員の意見徴集」などを行うことになり、同年4月19日には第1回技術委員会を開催した。当時のメンバーは委員長波辺誠一、幹事宮沢正窮、長谷川勇、書記鈴木勉、吉田光、会計宮田正明、委員稲田丞、大石博司、加瀬善弥、木坂洋司、作田久尚、田中一好、平田肇、本郷智之、松久哲雄の各氏13名であり、応力計算、鉄骨造、鉄筋コンクリート、地盤の各WGを編成し、会員から寄せられた多くの質問に対して精力的に取り組んだ。そして「新耐震に関する技術委員会の報告書(A4 100頁)にまとめ、翌年昭和58年1月29日にはその報告と討議の会を開催した。また、昭和57年9月24日には初めての事業として座談会を「構造設計の移り変わり」～市街地建物法から新耐震設計まで～講師に豊橋技術科学大学横尾義貫教授、中部部工業大学水野金市教授、本会会員二杵幸三氏の長老が当り、会員60名の参加のもとに時宜をえた有意義な催しとなった。

以上、中部支部設立前後の約2年間の新耐震設計法と当会の動きを重ね合わせて書いたが、今日、当会の発足より13年の歳月が流れ、正会員も約3200名(当支部326名)へと大きく飛躍したのである。

## 協会設立5周年記念講演会報告

このたびJSCA設立5周年記念事業の1つとして本部主催により、建築学会大会（東海）の開催される前日の9月7日、写真家・粗野行雄氏を講師に迎え、「テクノロジーアート」と題した講演会が百名余りの参加をえて開かれた。いつもと趣を異にして、ビールとおつまみが用意されてリラックスした気分で、サロン風な会でした。

粗野氏は写真家として、初めは産業写真——中でも大型構造物に魅せられたとか——を撮ることからこの世界に入られた。70年代後半になってエレクトロニクス関連を扱われる中で、ミクロの世界の面白さを発見され、電子（偏光）顕微鏡写真によりこの分野に取り組みました。この中に入り込んでいく時、神・宇宙に接する疑似体験をされる。



講演会風景

当日は我々の接し得ないミクロの世界を中心に130点余りのスライドでもってお話しされ、紙面では説明し得ないがサイエンスとアートが複合した中に美を見いだされた、美しく不思議な世界を見せていただいた。氏は写真集も出されているので具体的にはそれらを見られるのもよい。

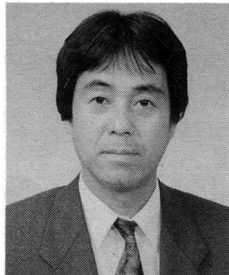


講師 粗野行雄氏

半導体の回路図には雑誌等で若干接しているものの、偏光フィルターを使ってカラー化された顕微鏡写真に接すると美の世界に入っていくことになる。写真の中には、京都市街地の1億分の1の地図や、某著名人の耳垢等もあった。話の中でH2ロケットに関する時に「完全と言うことは有り得ない、現場の職人芸は絶対に欠かせない」とか、半導体に関して1ギガの容量について、1ビットを米粒とすると東京ドームにピシリ詰まる、等の話題もあった。氏は、最近は半導体の世界から、バイオの世界、界面活性剤の分野に取り組みられているとのことである。今回は、通常とは異なる被写体でミクロの世界の美をあげあわせていただいた。又、近々発刊の書を名刺を置いていくと送って頂けるとのこと、着いたその本を開くのを楽しみにしている今頃です。（支部事業委員 橋村一彦）

## 第5回 JSCA 賞 (佳作)を受賞して

(株)飯島建築事務所  
道倉隆夫



今回、このような賞を受賞出来ました事は、身に余る光栄であり、関係各位に対し、感謝の気持で一杯であります。

この度、受賞を機にJSCA中部に原稿を書く機会を与えていただきましたので、構造設計につきまして、常日頃考えている事を述べさせていただきます。

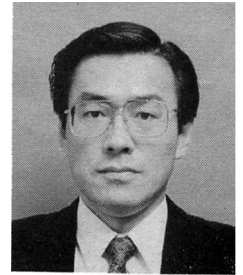
構造設計を依頼される度に、構造的に頑張っている設計をしようと思うのですが、現実はなかなか厳しく、構造デザインなどと言ってもらえないのが現状です。

構造設計は、建築家との協同作業ではありますが、建築家もまたクライアントとの協同作業であります。関係した皆が、あれは私が作ったと言う建物がよい建築だと言うことを聞いた事があります。このことから考えれば、クライアント、建築家、構道家、設備設計者、施工業者等々の協力関係なしには、よき構造設計は有り得ないのは明白です。

今回受賞出来た、服部緑地野外音楽堂は、各分野のスタッフと仕事にめぐまれた結果、公園の環境設備をふまえた音楽堂を作ることが出来たと思っております。

## 第5回 JSCA 新人賞受賞作品

清水建設(株)  
田中道治

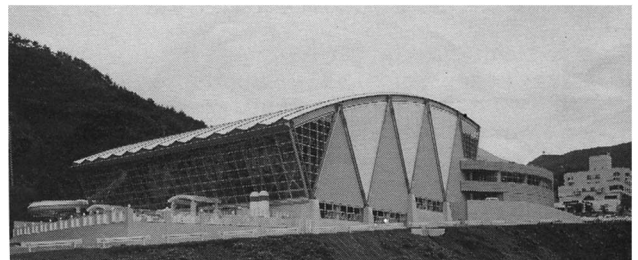


山形県米沢市と福島県福島市を結ぶ国道13号沿いの県境に位置する栗子スキー場エリアを活性化する為に計画されたウォータースライダー施設である。

平面形は43m×57mであり、屋根構造は長辺方向に展開された骨組み膜構造を採用している。

主架構は短辺方向にダブル鋼管トラス梁を採用し、ノンラスト架構と斜め柱で構成されている。

折版状V字型鋼管サブトラスで屋根膜を支持し弦材を空調ダクトとして利用している。



建物名称:CRICOアクアパラダイスデュオ(ドーム棟)  
所在地:山形県米沢市大字板谷字鎌沢529-24



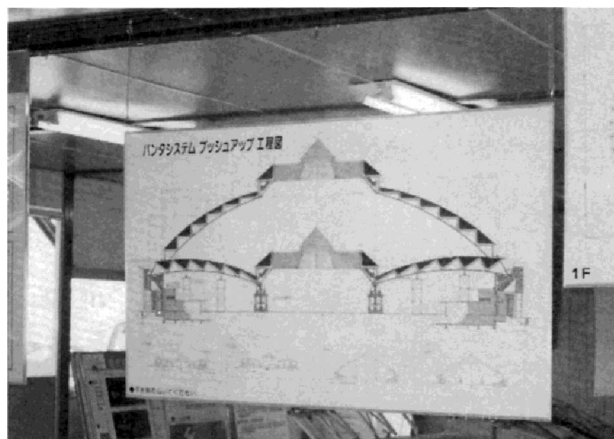
# ★ ★ サンドーム福井と生活学習館現場見学会 ★ ★

J S C A 中部では恒例の現場見学会が10月7日（金）に行われました。当日は、絶好の秋晴れに恵まれ、JR名古屋駅西口より事業委員の浅井、斎藤両氏の案内にて、中部支部より38名がバスで、最初の見学現場へと出発しました。現地合流で北陸支部よりも9名の参加者を含め、総勢47名予定通り正午に、武生、鯖江両市境にあるサンドーム福井の現場に到着。北陸の会員の方と懇親を兼ね昼食を共にし、現場見学に際し建物概要の説明を現場総括監理者の木村氏より説明、さらにビデオと精巧な骨組模型にて構法の説明がありました。基本計画（意匠）は福井大学岡崎甚幸教授、構造が法政大学川口衛教授による展示場及び多目的ホール施設である。イベントホール棟延床面積22,000㎡下部3層RC造、鉄骨ドーム屋根直径166m天井高40m屋根全重量4,500t（プッシュアップ時3,700t）留雪型ドーム状屋根（耐候性銅板厚3.2%）。この地域は多雪地域で、最深積雪量2mを積載する留雪型ドーム状屋根をパンタドームシステムによってプッシュアップする構法では初めての試みだそうです。パターンドーム構法のプッシュアップ工程の手順は、パネル写真参照。

完成率80%の現場内を加藤所長の説明で見学し、ドームを背に全員の記念撮影。現場見学後、集会室にもどりパンタドーム構法の施工報告や苦労話などいかががい、参加者からも技術的質疑があり予定時間がオーバーする有様、やむなく次の見学地へバス移動、30分程で福井市内に生活学習館（仮称）の現場に到着、設計監理協会の山本氏の現場説明があり、当館は女性総合センターと生涯学習センターの機能を併せもつ複合施設ということで、延床面積9,300㎡地下1階地上3階建RC造です。基本設計（意匠）は林雅

子氏、構造はサンドーム福井と同じ川口衛教授。建物中央ゾーンの多目的スペースを覆う28mスパンの不完全トラスと呼ぶ屋根構造システムに特徴がありました。桁梁に載架し、油圧ジャッキにてスライド架構する状況を直接見学する事ができ、時間的に少々ハードでしたが無事定刻に帰名。

広報委員 安藤文雄



## NKKのリング付鋼管柱 NTコラム

新商品

NTコラムは、円形鋼管にリングダイアフラムを取り付け一体化した柱通しタイプの新型コラムです。

### ■シンプルで明快な構造

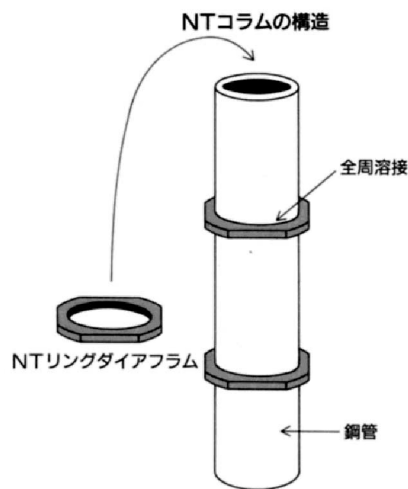
高精度の円形鋼管にダイアフラムを挿入して、はりフランジ位置に工場溶接、優れたコストパフォーマンスの実現が可能となりました。

### ■機能的なリングダイアフラム形状

リングダイアフラムは、はりフランジに合わせて直線切り加工済み。はりの取り付け加工が簡単です。

### ■豊富なサイズ系列

鋼管外径 400～1,000(mm)  
鋼管板厚 9～100(mm)



お問い合わせ先 建材センター  
建設鋼材営業部 建材技術室  
TEL. 03(3217)2212

## 建築家から構造家へ

(株)ビルダー一級建築士事務所 祖父江 義 郎

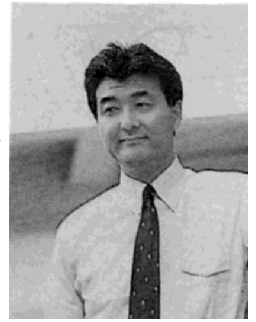
＝イメージ＝

最近、放映されているトヨタ自動車のCMで、ショールームに来た父親と娘に対して、営業マンが車の性能など説明していると、突然父親が「うちの娘はその車で幸せになれるかね。」と質問するシーンがある。企業は「幸せ」まで売り出すのかと私は驚いてしまった。幸せは他人から与えられるものではなく、自ら作り出すものではないか。車を買ったら幸せが手に入ると保証してしまうのだろうか。もちろんトヨタ自動車のCMの狙いは違うのだろうが「信じられない」とつぶやいてしまった。数日後、私の事務所に設計を依頼しに来られたクライアントが、建てようとしている住宅について希望する事柄を話し終えた後で、真剣な表情で「どんな家に住みたいのか考えていると様々なイメージが沸いてくるのですが、どれも満足できないのです。何のために家を建てるのか分からなくなってしまうのです。家を建てるとうれしくなるのでしょうか。どう思われますか。」と質問されました。私は意外な質問に返事ができずに黙って彼の目を見返してしまいました。私は彼と彼の家族が幸せになれるどんな住宅をイメージできるだろう。彼が彼の幸せを作り出すことはできるが、私が彼に幸せを与えることはできない。

しかし、私は今まで家を建てるとうれしくなるという前提で設計をしてきたのではないだろうか。外観を装い、過剰な設備を盛り込み、ステータスシンボルとしての役割も果たし「いつかはクラウン」と同じ発想でクライアントに対してきたのではないだろうか。彼の質問は私の中にたくさんの問いかけを作り出しました。そんな体験をした後、「現代社会と癒し—スリランカの悪魔払」というTV番組を見ました。ストレスによって所属する共同体から疎外され、精神的な病に冒された患者を呪術で癒し、共同体に復帰させる内容でした。番組の中で、近代的な医療では人間の体と心を部分の集積としてとらえ、病んだ部分のみ治療するが、癒し＝ケアは人間を1つの生命体として全体的にとらえ本来の健全な状態に戻す。現代社会では癒し＝ケアが求められているのではないかと提言されていました。このような考え方は建築を考えるうえでも大切ではないだ

ろうか。

悪魔払いの儀式の映像もとても興味深いのですが、印象的だったのは、患者が現実の世界からイメージの世界に連れ出され、そこで新たな自分のイメージを創り出し、イメージと一体となった後、現実の世界に戻されていく過程です。



建築の分野でも「イメージ」という言葉はよく使いますが言葉のもつ意味の一部分のみが表現されているように感じます。イメージはもっと全体的な意味をもった言葉ではないだろうか。イメージの世界は、現実の世界—認識される世界とは別の、見えない世界に近いものではないか、頭で理解できないこと、現実にはあり得ないことをも受け入れることのできる世界ではないだろうか。

構造設計の世界では、本来目に見えない「力」を数式で表現して、重量の法則をより分かりやすく実用化して扱っているのだと理解しています。この枠組みの中で認知される方法が取り上げられ、それ以外のものは夢の世界のお話しとして排除される。現実の世界はこのようなものだと考えている私たちに新鮮なイメージを創り出すことができるだろうか。

イメージの世界は子供の描く絵のように、枠組みにとらわれず自由奔放で魅力的なのではないだろうか。

イメージの世界でこそ新しい形や新しい構造システムが生まれ育まれるのではないだろうか。

初めからスプーンは曲がらないと考えるのではなく、スプーンは曲がるはずがないという考えを捨てることが重要だと思う。「夢をかたちに」という言葉は魅力的だ。

できないという点からのスタートではなく、できると信じる点からスタートする思考の転換が豊かで魅力あふれる世界を創り出すのではないだろうか。

「幸せになるでしょうか」と言う問いかけに対する回答はまだ準備できていない。しかし、イメージの世界では幸せはとても身近な当たり前のことで、現実の世界での概念を手放せば眼前にあるような気がする。

重力から解放された、軽やかで柔らかい、夢のような建築が現れるときが来ている。

## 人気好評!!

## 「若手構造技術者のための講習会」

追加募集受付中（先着20名に限る）

連絡先 JSCA 中部事務局 TEL 052-961-7449  
FAX 052-951-4134

## 会員紹介

会員のみなさま PR の  
ページです。

どしどし御応募下さい。

連絡先：鹿島 佐々木

TEL (052)972-0912

「良い構造設計ってなんだろう」構造設計に初めて出会った時からずっと思っていて。いまだ自分を納得させてくれる答えが見つかりません。これからも「良い構造設計ってなんだろう」と自問自答しながら行っていきます。



木内建設(株)

新井 勇 作

給料がもらえなくなって事務所を開設。大手建設会社の構造協力事務所という形で早16年にもなり自分の年齢にも驚かされています。時代の流れでCADを導入し何如に効率良くするかが今後の課題です。JSCAの友人との交流も楽しく、余暇を1日でも多くとれるようスタッフ3人と共に頑張っています。



栄建設事務所

村上 栄 俊

「構造を離れてはじめて構造が見える」というのが最近の心境である。構造設計の第一線にいた頃には、構造に拘り過ぎて、建築全体や街に目配りができていなかった。良い作品を作るのに拘りは必要だが、過ぎると物の本質が見えなくなる。再び第一線に帰れば、良い構造設計が可能に思うが、それを支える技術が？



(株)日建設計 名古屋事務所

本郷 智 之

構造家 or 構造屋、どちらを目指して日頃の業務を進めているかと考えてみると、後者になりがちな今日この頃。できるだけ“家”になろうと自分なりに行っていることは“美しいフォルムを心掛ける”現実にはなかなか構造が前面へ出る仕事はありませんが、いつでも出られるよう準備はしておきたいと思っています。



(株)竹中工務店 名古屋支店

青木 孝 司

仕事、仕事で趣味の無い人は“ボケも早い”との助言を受けて、一人で出来る写真を始めた。写真の対象は家庭の協力も得やすいネイチャー(ネーチャーではない!)としました。土曜日曜毎の山歩き(雑木林程度)ですが、或る日全てを忘れて集中した“一瞬”を待っていた私は、道端の行倒れと間違えられてしまった。



(株)竹中工務店 名古屋支店

岩 淵 淳 次

名古屋に来て、3年。会社業務と同時に、当会活動にも従事し、お陰でこの地域のいろいろな方と知り合う事ができた。



現在は、技術フォーラムを無事終え、ほっとしている所です。

オリンピックではないけれど、JSCA活動は「参加する事に意義有り」。

大成建設(株) 名古屋支店

井上 哲士朗

高校の学園祭で黒川紀章氏の講演に接し建築学科へ進んだものの、構造に興味を持ち、この道へ。



JSCAの会合へは極力出席しています。ただ、世間の求めている構造士は、特殊な構造設計のできる少数でなく、むしろ当りの建物をきっちり設計できる技術者だと思います。この様な末端の会員にも御配慮を。

(株)ANDOU 構造設計

安藤 誠

私の家は恐らく縄文以来の農民であると思われる。父の代から兼業となりその後次第に都市化が進み耕地も減って、今では2反余を宅地並の税金を払い、トラクターで耕し田植機で植え、そしてコンバインで刈り取る。年に数十万円の赤字となりますが、それでも農民の子孫たる私は遥かなる郷愁を農に覚えるのです。



(株)中建築設計事務所

梶田 丈

## 都市の顔を彩る ダイワのSFRC



SFRCを使用したダイワ名古屋事務所

PCカーテンウォールの新たな可能性を切り拓くSFRC  
設計から製造・施工までを手掛ける、“技術のダイワ”

### SFRC(ステンレス繊維補強パネル)の持つ特長

- 版厚の大幅低減による軽量化(パネル厚・重量とも従来パネルの約1/2)
- 設計ニーズに合わせた自由な形状が可能
- タイル・石・塗装等のあらゆる仕上材に対応可能
- 高強度・高耐久性を実現



株式会社 **ダイワ**

本社・工場/三重県員弁郡大安町梅戸1316 Tel (0594) 77-0821  
名古屋事務所/名古屋市昭和区鶴舞2-5-22 Tel (052) 883-2611  
大阪支店/大阪市北区中之島6-2-40 Tel (06) 447-5525  
東京事務所/東京都港区元赤坂1-5-31 Tel (03) 3796-6030